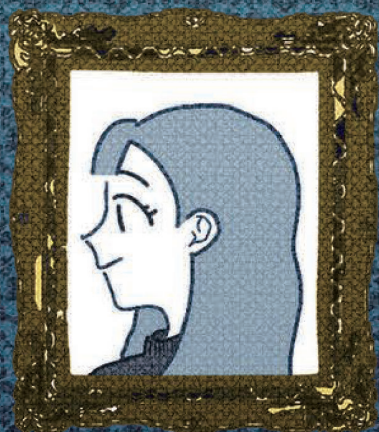


# 満月の夜の魔女学校



作・絵 浦添凜音





人も街も眠りにつく 丑三つ時

夜が深くなるにつれて、森の奥は騒がしくなっていく。

森の奥には、いったい何がいるのでしょうか？

人を食らう、肉食モンスター？

夜、眠らない子どもを さらっていくおばけ？

いいえ・・・・・・・・



正解は魔女です！

満月の綺麗な夜、魔女たちは ほうきに乗って  
森の奥にある魔女学校に向かうのです。



このたび、魔女学校への  
入学に許可されましたことを  
心よりお喜び申し上げます。

つきましては、こちらの  
招待状を送らせて頂きます。

日時：満月の夜

場所：森の中の魔女学校

魔女学校校長より



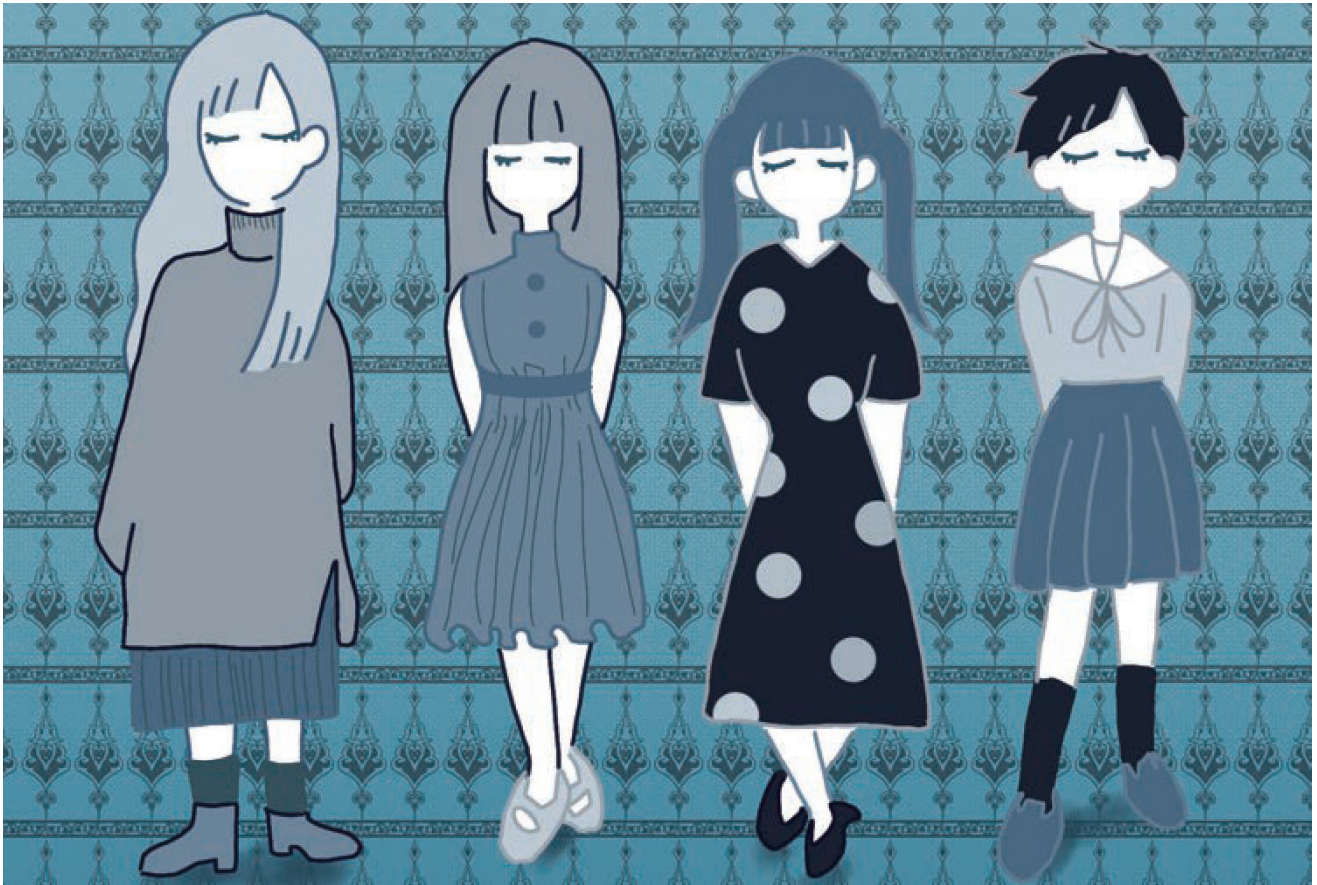
これは、魔女学校の招待状です。  
この赤い封筒が届いたキティたちは皆、  
魔女になれる資格を 授かります。

キティというのは、私たち魔女の言葉で  
“人間の女の子” という意味です。

今夜は校内見学。  
たくさんのキティに魔女学校の魅力について  
知ってもらうため、あなたをこの  
満月の夜の魔女学校へ招待させていただきました。

魔女学校へようこそ。





彼女たちが今年の新入生。

立派な魔女へと成長するために、  
この学校では「魔女見習い」として  
これから5年間の修行をしていきます。



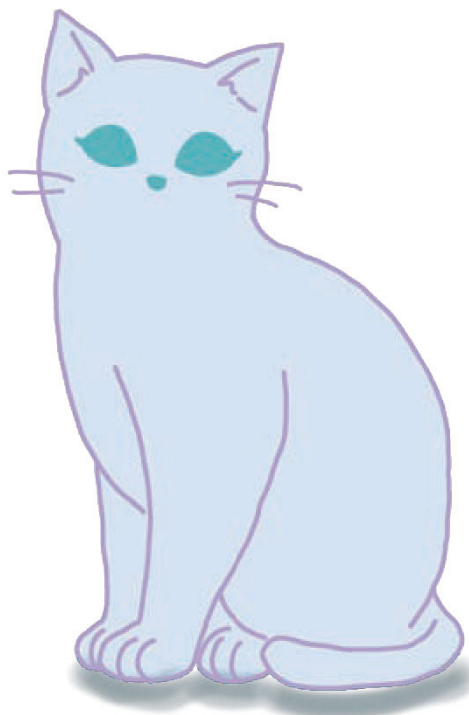
それから、彼女は白猫のマチルダ。  
見た目は猫でも、マチルダはとても優れた魔女なのですよ。

彼女は、魔女見習いたちの先生を任されています。

「まあ！白猫が先生なのね」

「マチルダ先生は人の言葉がわかるの？」

「ええ。ちゃんと話せますよ」

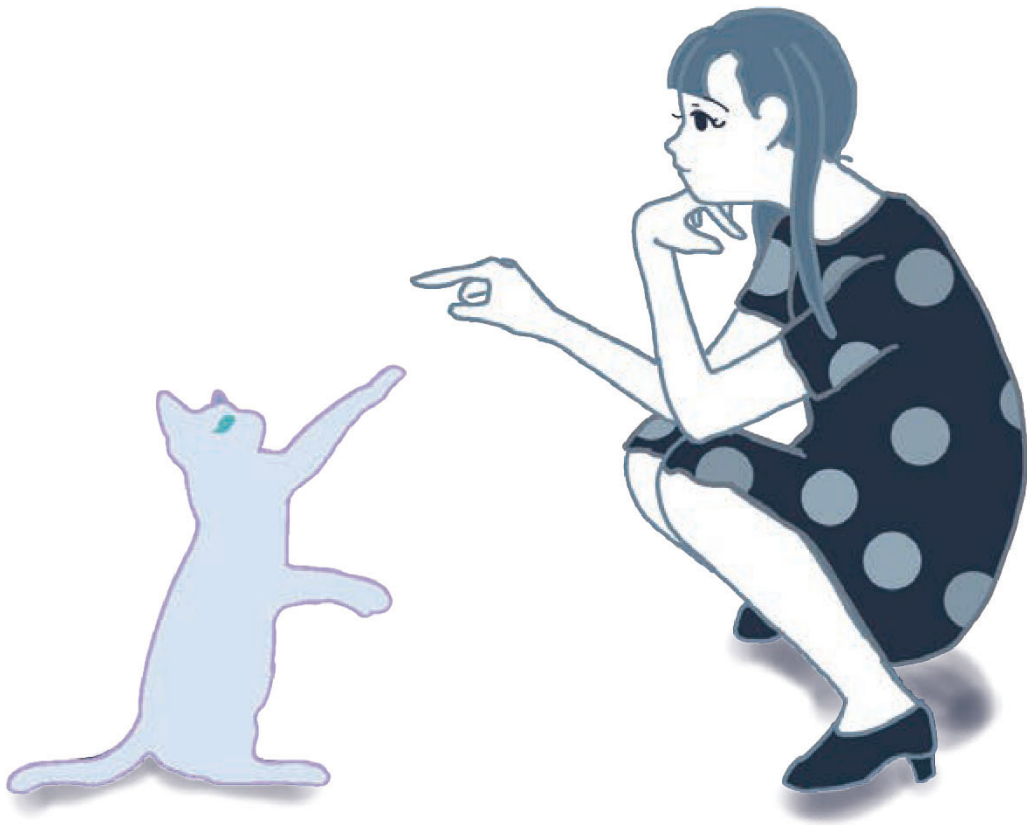


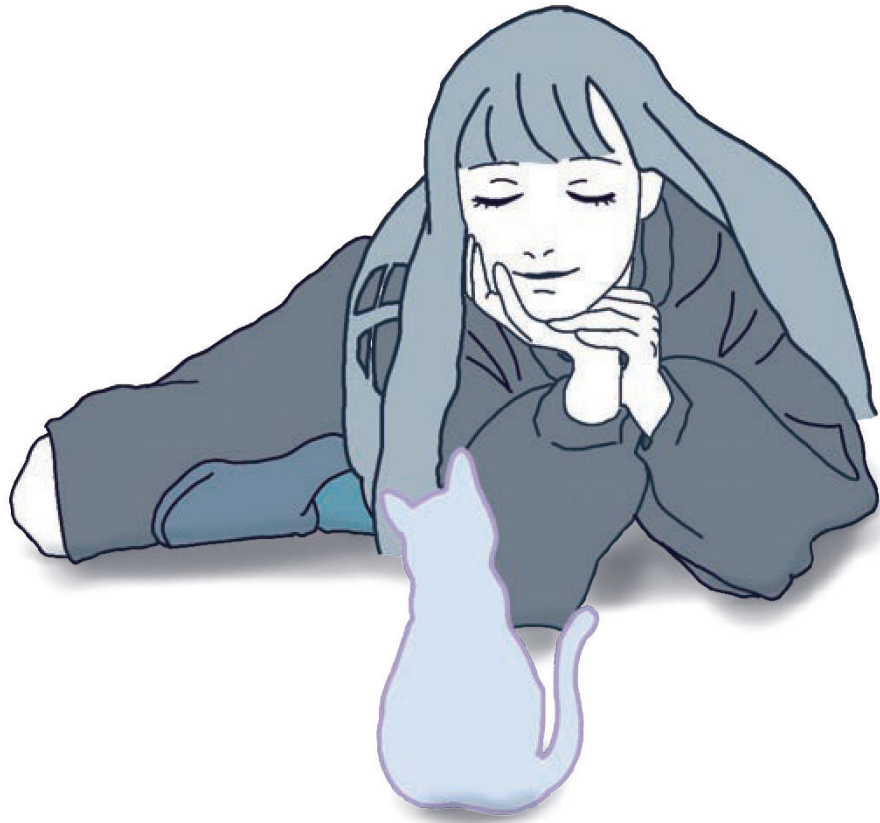


「先生も魔女？」

「もちろんですとも。猫でも、クジラでも、オウムでも、  
なろうと思えばみんな魔女になれます。ここは、  
そういう場所ですからね。

私の口から聞くより、みんなも実際に自分の目で  
確かめたほうが、よく分かるわ。」





マチルダは続けて言います。

「質問タイムはおしまいね。

さあ、小さな魔女さんたち、もうすぐ授業が始まります。

その前に制服に着替えていらっしやいな。」





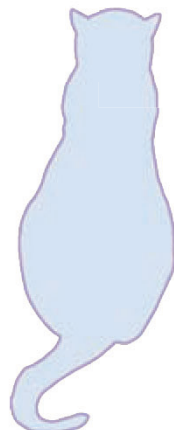
魔女になるための第一歩として  
魔女見習いは まず、  
魔女の服に着替えなくてはなりません。



黒いワンピースに、黒の革靴を履いて  
頭に被るのは黒いとんがりボウシ

みんな、ちゃんと着替えることができたかな？





真っ黒な制服に身を包んだ魔女見習いたちは、大喜び。

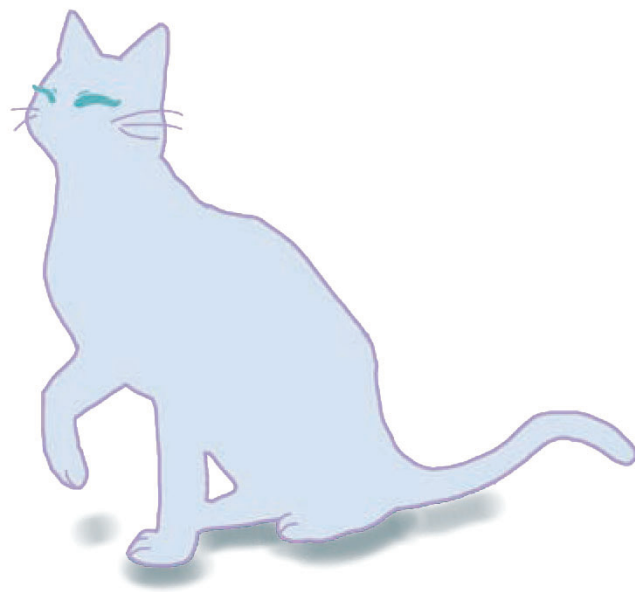
「ねえ、みて！本物の魔女みたい！」

「可愛いねえ」

「似合ってるかな？」

みんながあまりにも嬉しそうに言うので  
マチルダもニッコリです。

「とてもよく似合っているわ。みんな素敵よ」



魔女見習いたちの、魔女修行が始まります。





制服に着替えて、魔女見習いたちが  
向かった先は学校の中庭でした。

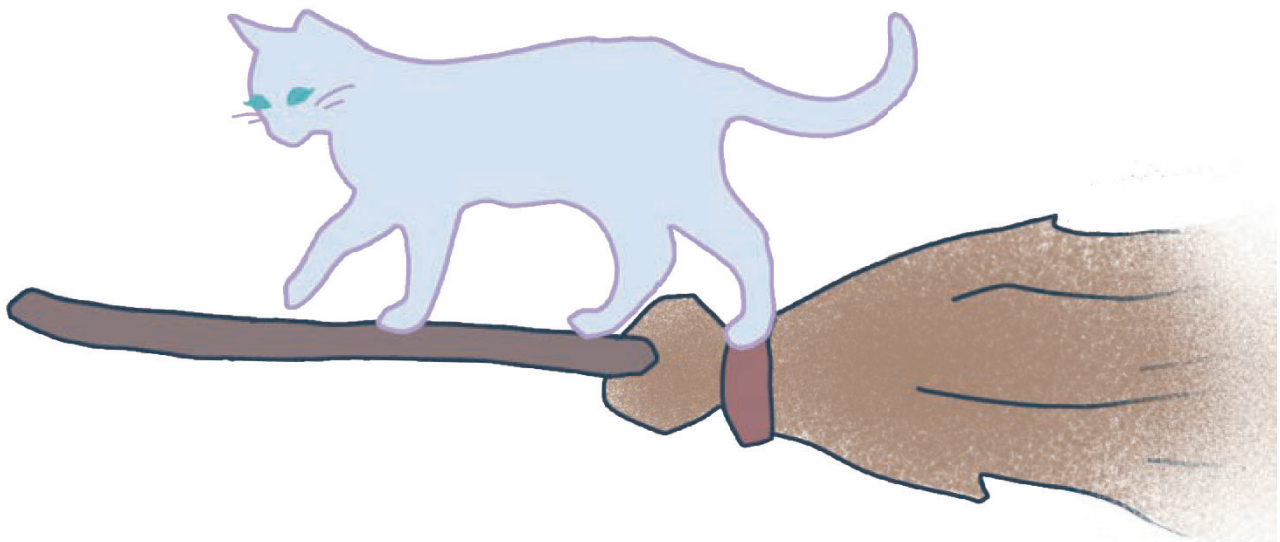
初めての授業は、ほうきの飛行訓練です。

「みなさん、緊張していますね。  
高いところは苦手な子もいるでしょう。  
気持ちは分かります。

私も、見習い時代 猫だからという理由で  
先生に、崖から突き落とされたことがありました。

はじめは失敗もするし、うまくいかないことのほうが  
多いけど、出来ないからと怯えてばかりじゃダメよ」

マチルダは柄に乗り、飛んでみせました。





「自分が飛んでいる姿を想像してみても  
みんなと一緒に、せーのっ！」



「どうしよう、  
全然浮かない」

「いてて、転んじゃった」





「浮いた！？これ絶対浮いてるよね、飛べてる？」

「ほうきに乗るのがって難しいのね」



みなさん、練習あるのみですよ。

飛行術の訓練がおわって、みんなはもうすでにヘトヘト。

けれども、魔女学校の授業は始まったばかりです。

次は、魔法薬の調合をします。

数多の魔法を操る魔女に、大鍋は欠かせません。

今回は、初心者でも失敗しないで作れる薬を作ります。









## 変身薬のレシピ

1. 大鍋に火を付け、マンドレイクを入れる
2. 大鍋にヒルを3匹入れる
3. 4回、時計回りに掻き回す
4. すり鉢でユニコーンの角を粉末状になるまですり潰し  
大鍋に入れる
5. 10分高温で熱する
6. ベラドンナの実を2kg入れる
7. 月の雫を入れて、薬を20分醸造する

完成！





変身薬が出来上がりました。  
ね、意外と簡単だったでしょう？

きちんと効果を発揮できるかどうか、飲んで確かめます。

すると、魔女見習いたちの体は  
みるみると姿形が変わっていき、  
教室全体は煙に覆われていきました。



ようやく視界がひらけていき、魔女見習いたちの無事を  
確認しようとしたマチルダは驚きます。

けむりが止んで、中から現れたのは、

黒猫に、とかげ、ウサギにそれから・・・・・・・・？

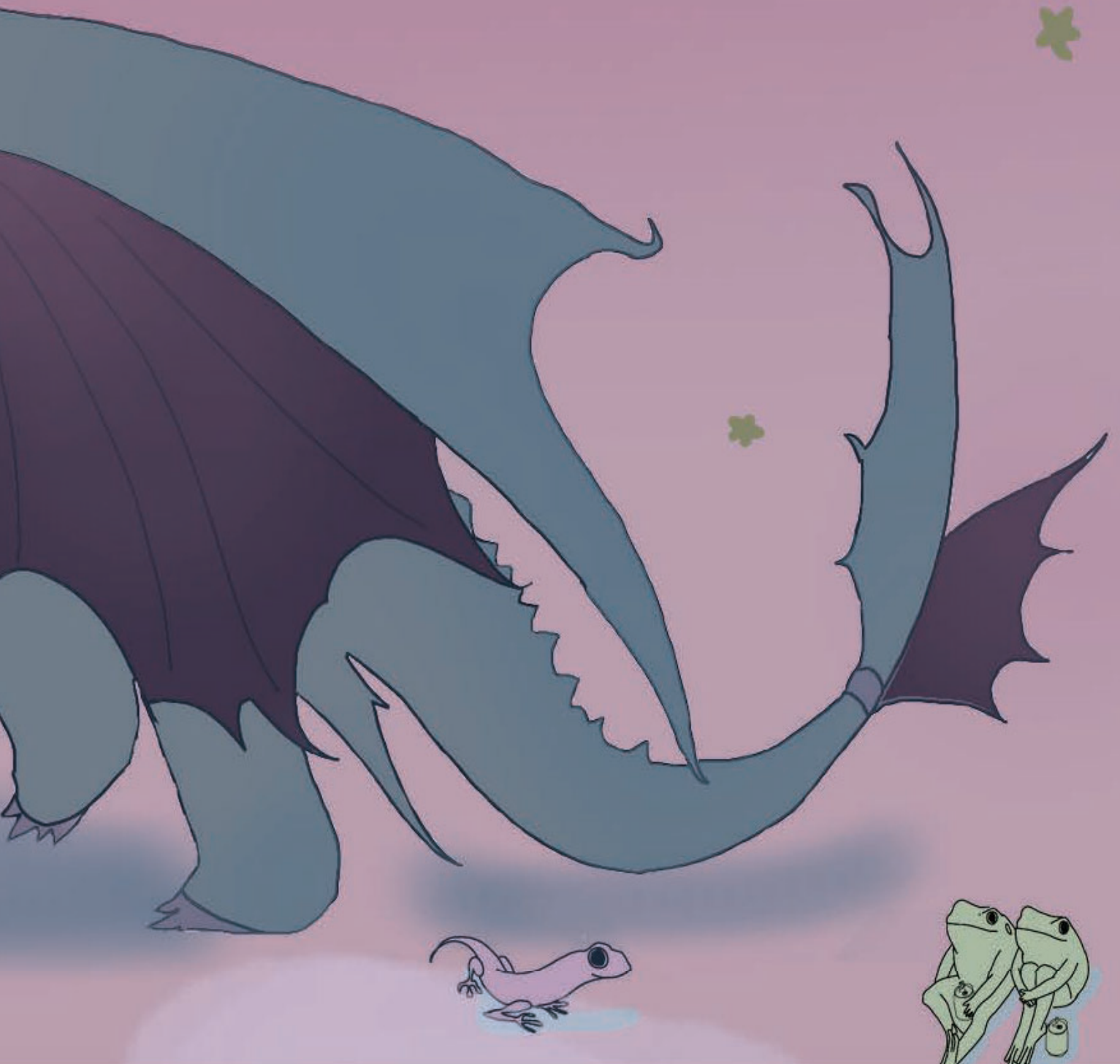








ドラゴン・・・！？



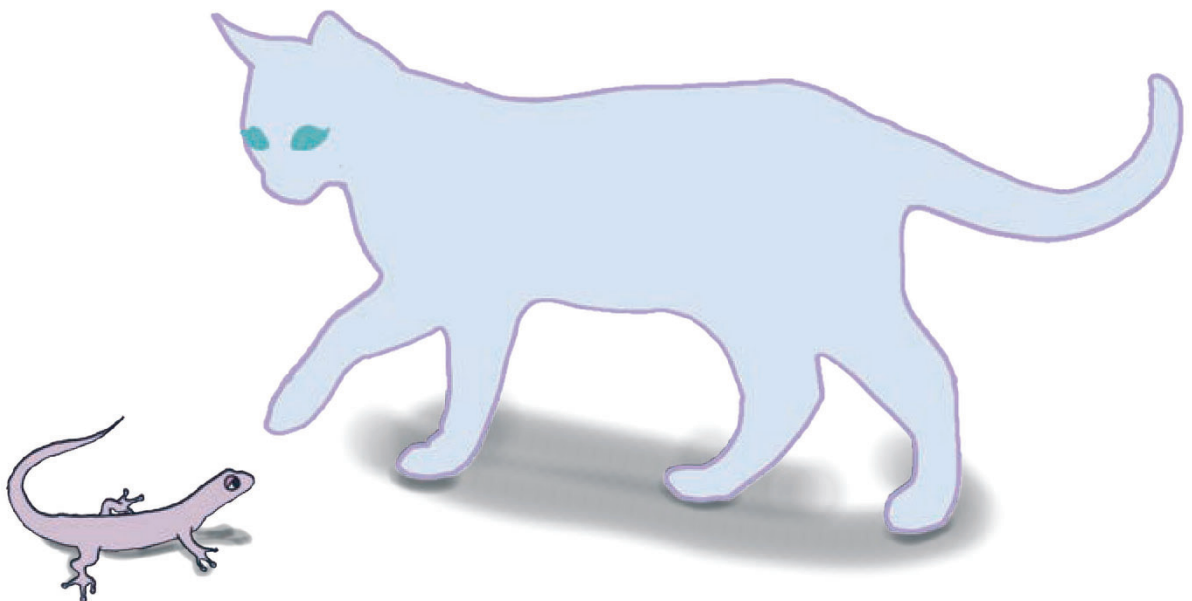


「先生、トカゲも魔女になれますか？」

「う～ん、どうかしら。私たち魔女はみんな、  
トカゲを薬で煮込んでしまうから・・・」

「ええっ！？ そんなあ」

「ふふ、冗談です。あなたを大釜で煮込んだりしないわ。  
すぐに戻してあげますからね」





マチルダの言葉通り、みんな解毒剤を飲むと  
元の姿に戻ることができました。

「あー、びっくりした！」

「私、このさき一生ドラゴンのまま  
戻れないかと思っちゃった」

「ねえ、お腹空かない？」

「たくさん動いたものね」

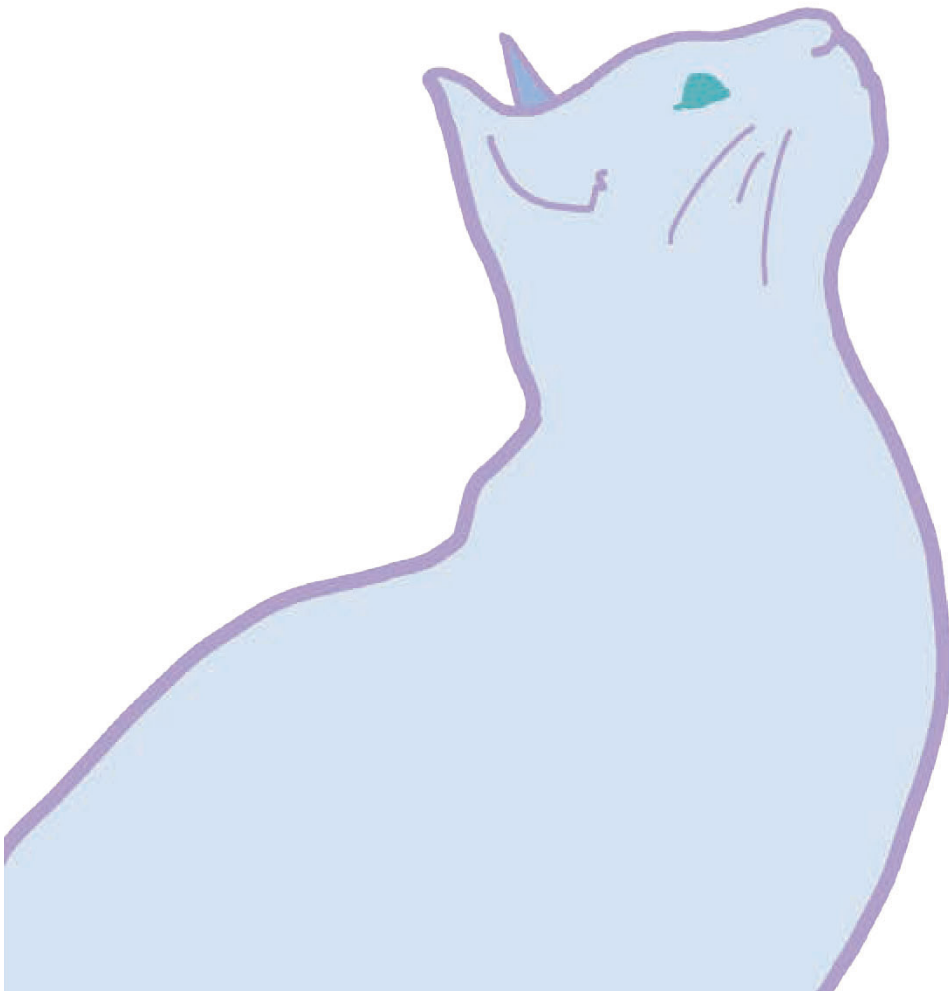
だれかのお腹がぐうっとなります。

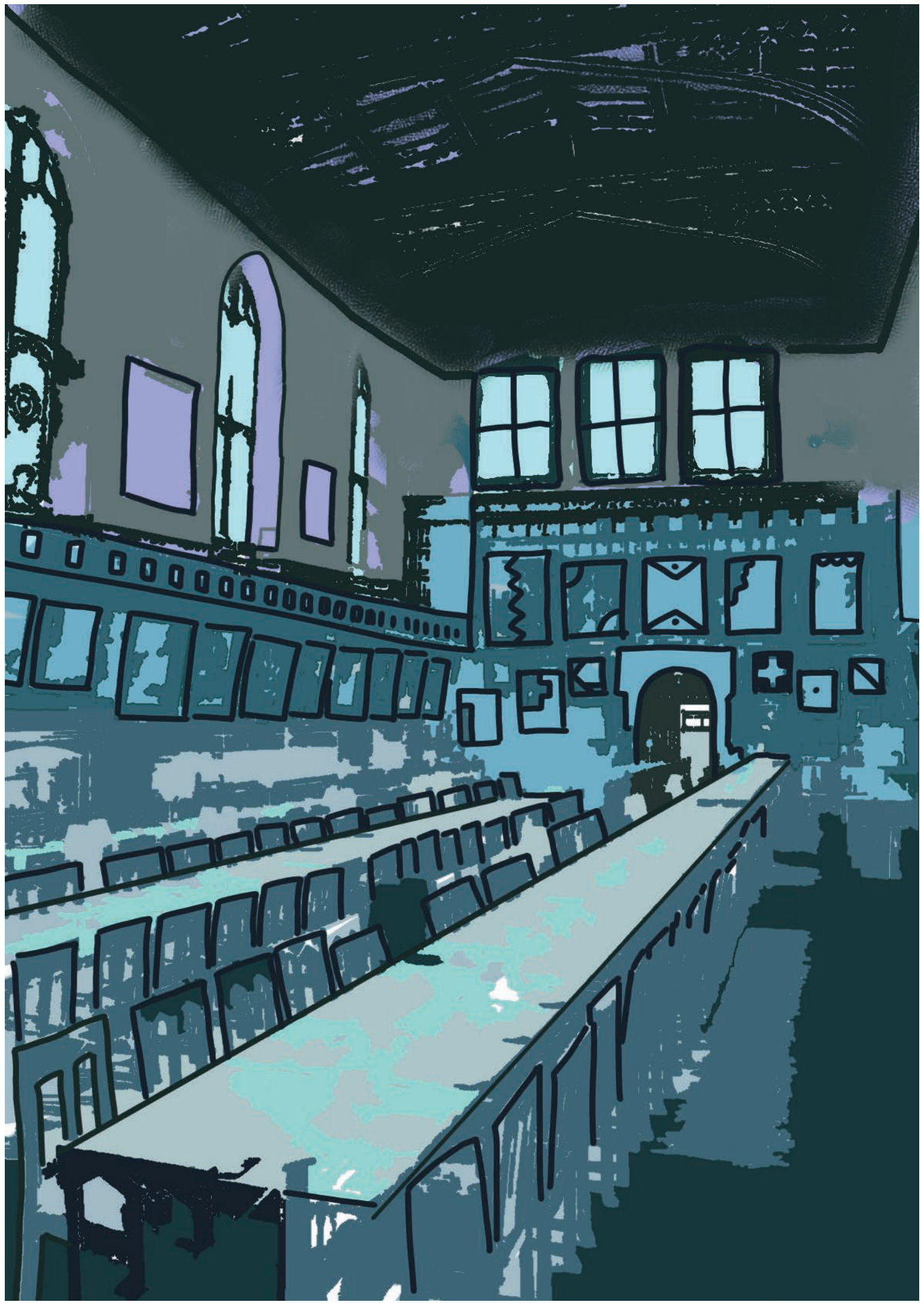




「みんなに嬉しいお知らせです。  
そろそろ給食の時間ですよ」

マチルダに連れられ、学校の大広間へ向かいます。





大きな長テーブルに、色とりどりの料理が運ばれてきます。

「先生、魔女は目玉も食べるの？」

「キョンシーの目玉ね。食べたら死後硬直したように身体が硬くなりますよ。時間が経てば解けるから大丈夫」

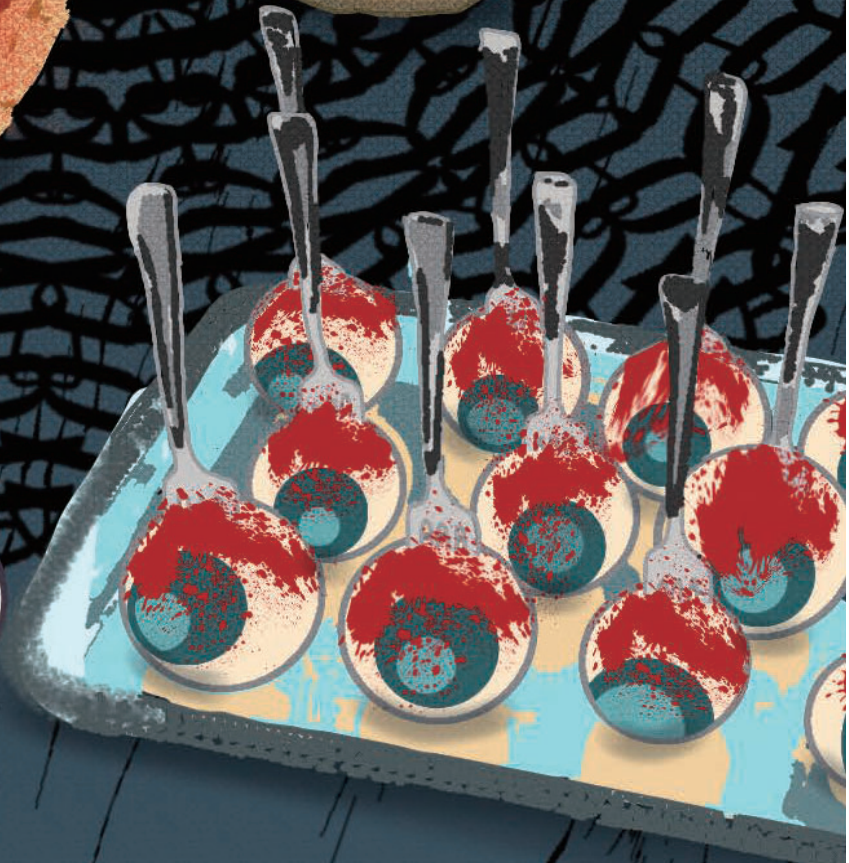
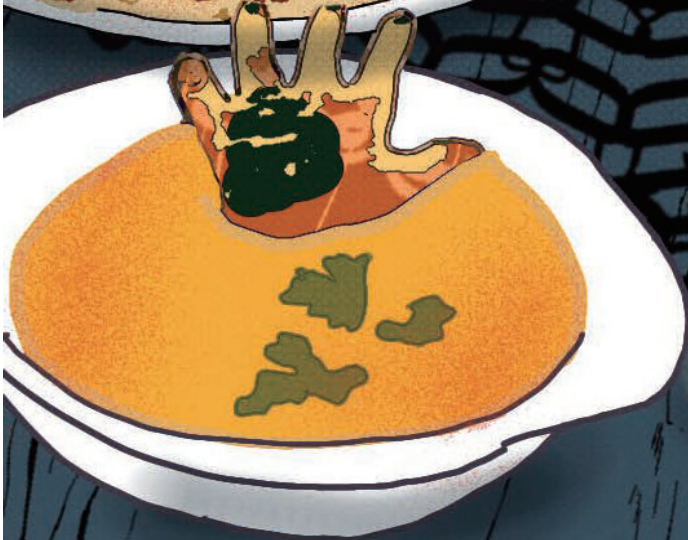
「毒りんごアップルパイですって！」

「マンドラゴラのちぎりパンは、食べ過ぎると顔がむくむらしいわ・・・マンドラゴラ顔に」

「マンドラゴラ顔・・・？」

「魔女の中に栄養士はいらっしゃいますかぁ？」











どれも魔女が好きなものばかりです。

でも、気をつけてください。

給食の魔女は、この世で1番恐ろしい魔女なので  
好き嫌いをして食べ物を粗末にすると、大変ですよ。



ウシガエルに姿を変えられ、その日の給食は  
カエルパーティーだったとか、そうじゃなかったとか・・・

美味しいですよ、タンドリーウシガエル。

魔女見習いたちは 覚えておいて損はないでしょう。



今日の学校見学はこれでおしまい。

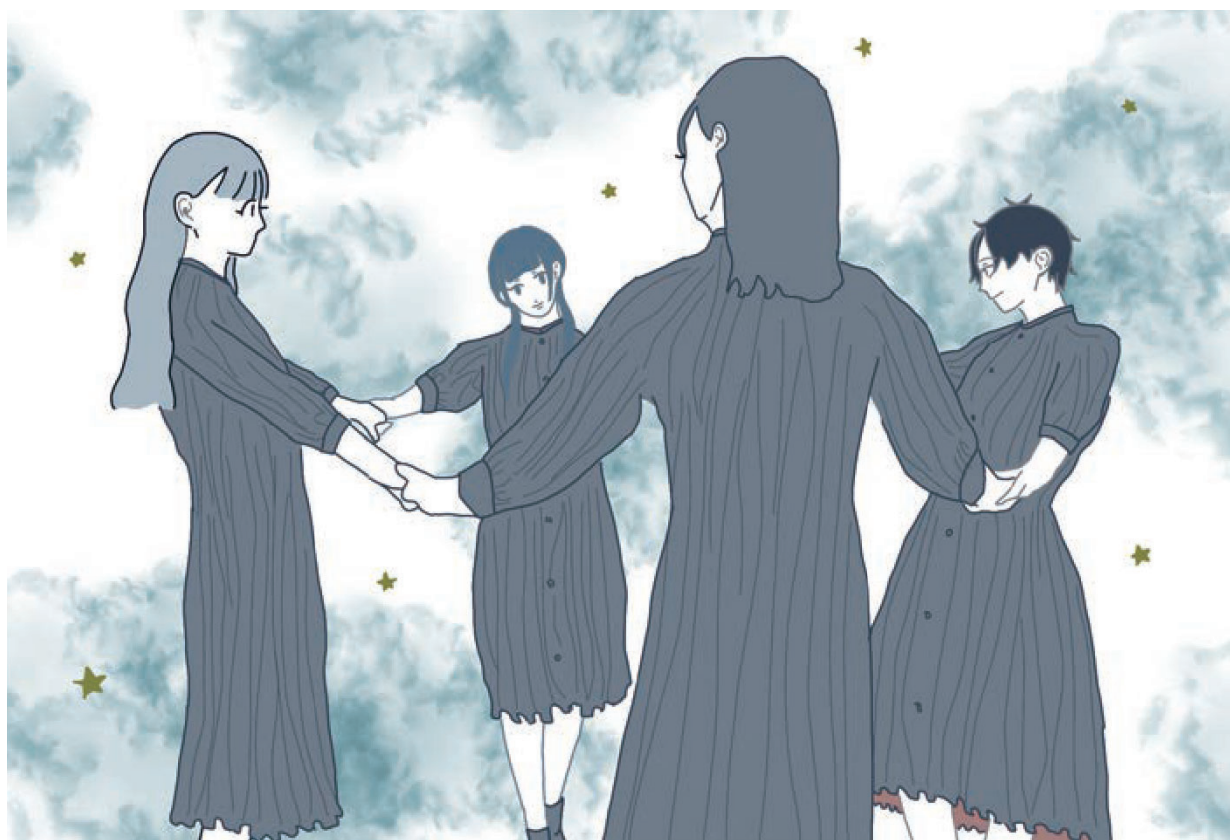
魔女の学校はいかがでしたか？

これを読んで、あなたが魔女に少しでも興味を  
持ってくれたら嬉しいです。

あなたに 魔女学校の招待状を送らせていただきます。

今度お会いするときは、  
キティを魔女見習いとして歓迎するわ。

では、いずれ 満月の夜に魔女学校で会いましょう







アタギサン

名前はサーターアンダギーを見てたら思いついた。  
4人の中では、いちばんお姉さん。

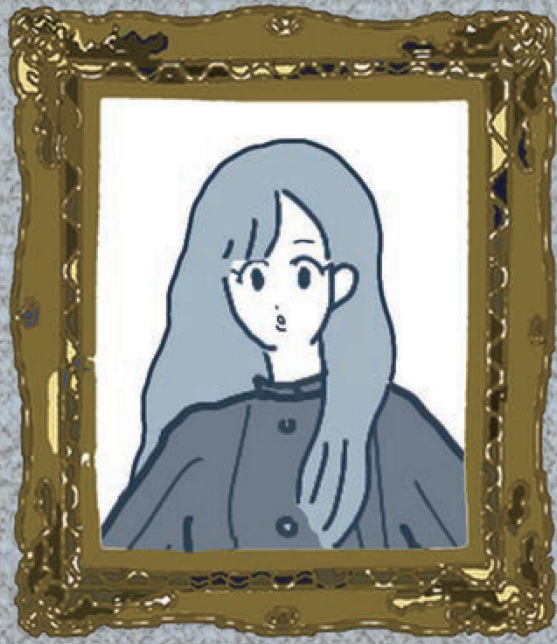
チョコ

二つ結びが得意。

シンメトリーをみると安心する。







セムラ

洋食より和食派。

祖父がノルウェー人で、祖母は魔女だった。



マコト

変身薬でトカゲになったのはこの子。

テレビの録画の仕方が分からない。





マチルダ

猫が高いところから落ちて平気でも  
マチルダは平気ではない。

給食の魔女

昔、魔女学校で教鞭を取っていた。



カエル

カエル。





番人

魔女の森の守り神。

木の幹に穴を掘って住んでいる。



幽霊さん

真夜中に学校の廊下でときどき目撃されるが、正体は不明。

よく白猫の絵画の前にいる。





このたび、魔女学校への  
入学に許可されましたことを  
心よりお喜び申し上げます。  
つきましては、こちらの  
招待状を送らせて頂きます。

日時：満月の夜

場所：森の中の魔女学校

魔女学校校長より



